

## 平成29年度 ぎふ少子化対策県民連携会議開催結果

### 1 日時

平成29年10月31日(火) 10時00分～12時00分

### 2 場所

県庁 4階特別会議室

### 3 出席者

浅野 健 司	(岐阜県市長会 各務原市長)
加藤 智 子	(岐阜県中小企業団体中央会 レディースクラブ会長)
木野 隆 之	(岐阜県町村会 輪之内町長)
木村 麻 理	(NPO法人山県楽しいプロジェクト 事務局長)
下屋 浩 実	(岐阜県私学団体連合会 会長)
竹内 治 彦	(岐阜経済大学経営学部 教授)
中谷 敬 子	(岐阜県商工会女性部連合会 会長)
中村 正	(一般社団法人岐阜県経済同友会 筆頭代表幹事)
廣 嶋 忍	(岐阜大学教育学部 教授)
福 富 泰 岳	(岐阜県保育研究協議会 会長)
堀 江 弘 美	(岐阜県PTA連合会 母親委員長)
安 田 典 子	(NPO法人くすくす 理事長)
山 田 英 治	(岐阜県商工会議所連合会 岐阜商工会議所 専務理事)
横 山 加 奈	(中部学院大学 学生)
脇 淵 徹 映	(一般社団法人岐阜県民間保育園・認定こども園連盟 会長)
度 会 さち子	(岐阜県各種女性団体連絡会議 代表)

以上16名 ※50音順

### (県)

神 門 純 一	副知事
鈴 木 裕 子	健康福祉部子ども・女性局長
服 部 敬	健康福祉部子ども・女性局副局長
長 屋 秀 樹	健康福祉部子ども・女性局女性の活躍推進課長
安 江 真 美	健康福祉部子ども・女性局子育て支援課長
長 尾 安 博	健康福祉部子ども・女性局子ども家庭課長
山 田 しのぶ	健康福祉部保健医療課保健企画監
浅 井 克 之	健康福祉部障害福祉課長
安 田 圭一郎	健康福祉部地域福祉課長
板 津 浩 司	商工労働部商工政策課長
広 瀬 雅 史	商工労働部産業人材課人材確保対策監
長 尾 広 幸	教育委員会教育総務課管理調整監

### 4 議事

- (1) 会長の選任について
- (2) 第3次岐阜県少子化対策基本計画の実施状況報告と中間年の見直しについて
- (3) 県子ども・子育て支援事業支援計画の中間年の見直しについて

### 5 議事要旨

別紙のとおり

## 平成29年度 ぎふ少子化対策県民連携会議・議事要旨

### 1 あいさつ

- ・ 神門副知事あいさつ

### 2 議事

#### (1) 会長の選任について

- ・ 委員の互選により竹内委員を会長に選任

#### (2) 第3次岐阜県少子化対策基本計画の実施状況報告と中間年の見直しについて

<子育て支援課長>

- ・ 第3次岐阜県少子化対策基本計画の実施状況報告と中間年の見直しについて説明

#### ※質疑応答等

<委員>

- ・ 資料2の9ページ「転入・転出者数（日本人）の推移」にある若い世代の転出数はどうなっているか。いろいろ施策を打っているのに、転出数が止まって、転入数が増えれば良いと思う。
- ・ 資料3の8ページ「年次有給休暇取得率」について、ワーク・ライフ・バランスの中でも、近年、出産年齢が高くなっていることもあり、子育てと親の介護の問題が出てきている。女性だけでなく男性にも深刻な問題である。介護休暇の制度を企業に促すとよい。

<子育て支援課長>

- ・ 平成28年岐阜県人口動態統計調査結果（県統計課作成）の資料を配布し説明
- ・ 20歳代では「職業上」による転出超過が多く、また男女を比較すると、女性で「結婚・離縁・縁組」による転出超過が大きくなっている。

<会長>

- ・ 岐阜県では高校生、大学生が進学からそのまま県外に就職してしまう人口流出が課題となっている。少子化対策の次期計画の策定では、出産してもらえる若い世代の流入をいかに増やしていくのかという視点を入れ込むとよい。
- ・ 資料3の7ページ「3-（5）多子世帯等の経済的負担の軽減」にある新目標値について、42ある市町村数になっていないのはなぜか。

<子育て支援課長>

- ・ 「多子世帯病児・病後児保育利用料無償化実施市町村数」については、平成31年度までに病児保育事業の実施予定を聞いている39市町村としている。「第3子以降保育料無償化実施市町村数」については、現在までに40市町村が実施の見通しとなっていることから、残りの2市町について働きかけていきたい。「第2子以降放課後児童クラブ利用料減免実施市町村数」については、県内1市が放課後子ども教室という異なる形態で取り組んでいることから41市町村としている。

<会長>

- ・ 中間年の見直しについて異議なしということによろしいか。

※異議なし

## ※各委員の意見等

### <委員>

- ・県内42市町村が独自施策を通じて、NPO、市町村内企業など関係団体と協力しながら転入増を目指していきたい。
- ・各務原市では平成27年までは人口が減っていたが、平成27年からは、若干増えてきている。その背景としては、20代・30代の女性の転出が減って転入が増えている。アンケート結果を見てみると、緑が多い、公園が多いなどの理由もあるが有効求人倍率が高く、工業・商業など女性の働ける場があるのが影響している。
- ・幼児教育・保育、給食費の無償化について懸念している。小児医療の無償化でも激しい市町村間競争が始まってしまっている。県には過剰な競争の抑制のための指導やリーダーシップを取っていただきたい。

### <委員>

- ・多治見市の現状を調べてきたが、10月現在で待機児童はゼロとのことである。名古屋のベッドタウンであったが、団地等の老朽化により若い人が出て行っているためか、人口は減少している。
- ・教育費用の無償化を言われているとおりに進めてもらえれば、子育ても出産も安心してもらえるのではないかと。
- ・不妊治療のために退職を余儀なくされる人が多くいるということテレビで聞いた。その点、岐阜県はどうなっているのかと思うところ。私どものような小さい企業ではその方の体調に応じて順応できているが、大企業にいる女性は特に真剣に考えている問題であり増えていると聞いている。

### <委員>

- ・少子化対策にいろいろな切り口で取り組んでいるが、本当の意味での効果があるものは何かを考えないといけない。
- ・少子化対策を考えるうえで、地域間の人口の引っ張り合いにならない前提が必要である。局所的にやっても日本全体が沈んでしまっただけでは意味がないということは押さえていきたい。全体の人口増にどう繋げていくかという点でいうと、加点の部分、プラスαにどう注力していくかということ日々考えている。
- ・何でも無償化ということには抵抗があり、政策の体系づけができない単なる無償化にはあまり効果がないのではないかと考えているが、地域の特性づくりのために、徹底的に行う無償化であれば意味があるのではと思う。
- ・基本計画の性格を測りかねている。メニューとして提示されている中で、どれを特色づけてやっていくか、自分の町の選択として何をやっていくかのきっかけづくりになればよい。

### <委員>

- ・NPOとして移住定住の取組みのほか、内閣府の交付金を活用した自然体験保育の取組みを行っている。また、結婚支援の取組みとして、4月からは山県市地域結婚支援協議会を立ち上げた。地域における結婚支援で何ができるか、地域の住民と共にスタートしたところである。取組みを始め、良かった点としては、地域の事業者や消防団が独自に婚活のイベントを実施するので支援してほしいなど、地域での動きが出てきたことである。

### <委員>

- ・高山の3市1村の新生児が1,000人を割る状況になっている。全ての産業で後継者不足などの課題により成り立たなくなってくることを危惧している。
- ・中学校から県外に流出して進学する子どもが約500人、県内に流入して進学する子どもが約200人となっているが、県内に来た子どもは高校卒業とともにまた県外に流出してしまう。県外に進学した子どもは県内に戻ってこない。実体では高校入学の段階で700人の子どもが流出している。
- ・中学校、高校、大学の各々の段階で、県外に出ていく子どもの年齢に応じた、新しい流出対策が必要だと思う。
- ・男性の不妊治療の申請件数はあまりにも少ない。不妊の原因が男性にもある中、まだまだ不

妊は女性の責任という考え方があるのかと思う。県が率先して、男性にも不妊の原因があることを周知徹底してもらい、男性の不妊治療も女性と同じように行えるとよい。

- ・企業にも男性が不妊治療で休暇を取りやすい仕組みが必要ではないかと思う。

<委員>

- ・従業員の高齢化が進んでいる中、介護や孫の面倒を見なくてはならないという理由での欠勤者が増えている。
- ・若い世代の意見を聞くと地元で働く場がないというが、どんなところでも働くのだと柔軟に考えられる教育を小さいころから行い、仕事を選ばない社会づくりも必要だと思う。
- ・過疎地ほど人を増やしていく方法を考えていかなければならない。若い世代だけでなく、中高年の世代も孫を育てなくてはならないという理由で離職をされる方もいるので、中高年の待遇も考えていただきたい。中高年も子育ての中の一人として、岐阜県らしい待遇をしていくと企業も助かる。

<委員>

- ・衆院選では教育保育の無償化が争点になった。今後、無償化の取組みが順次拡大されていくと、需要ニーズが高まっていくと思われる。平成27年度の当初計画の策定時とは状況が大きく異なってくることから、無償化の拡大に備え、保育サービスの充実を当初計画より加速させる必要があると強く思う。
- ・岐阜県では自動車による通勤者が多く、働く母親にとって企業主導型保育所は利便性が高いということで、企業が設置に向けて前向きになれる啓発活動を県独自で行っていくことも保育サービスの充実につながっていく。
- ・病児保育は働く母親にとって心強い。人口約20万人いる東濃西部（多治見、土岐、瑞浪）に、病後児保育はあっても病児保育がないことは課題である。病児保育は子どもが急に発熱したなど、働く親にとって心強いシステムであり、子どものセーフティーネットにもかかわることから、病後児保育とは分けて優先的に取り組む必要がある。

<委員>

- ・計画の目標となる指標に追加する「保育士の人材の確保及び資質の向上」に県と共に協力していきたい。
- ・経営している保育所では、来年度保育士が2名不足する状況にあり、4月に向けて採用を頑張らなくてはいけない状況にある。

<委員>

- ・9時から17時までフルタイムで働いているが、自分が育児休暇を取った10年前と比べると育児休暇が取りやすくなっていると感じている。育児休暇を取った後も時短制度を利用でき、感謝している。働く若い母親からも喜びの声をたくさん聞いている。
- ・若い世代では、パートナーの給料や今の生活水準を下げないということから、結婚後も私も働くという意識を持つ女性が多い。そういう意識を持つ女性が働きやすい環境をつくることは大事だと思う。時短制度がない企業もまだまだあるので、広げていってもらえたら嬉しい。
- ・女性に対するキャリアアップ支援とあるが、男性に対するアピールももっとしてほしい。理解を得にくい上司がいると、子育てのための帰宅を申し出にくかったりして苦しんでいる方もいる。男性に対して子育てに対する理解を深めるようなアピールがあると良い。
- ・最近、九州・山口で知事の妊婦体験動画が話題になっている。そういった目に見えるアピール方法も一つではないか。

<委員>

- ・自治体消滅の懸念から地方創生に取り組んで、やっと実行段階に入ってきたところであり、この対策としてインバウンド対策や働き方改革、少子化対策が有効であろうということで、特に少子化対策についてはもっとも重要で長期的かつ継続的にやっていかなければならない対策として、経済界としても全面的に協力していきたい。

#### <委員>

- ・働く女性、働きたい女性が増えてきているが、1人目は産んだけれども、2人目はどうしようかという声をよく聞く。理由は、1人だったら自分が世話をできるが、2人になるとなかなかできないし、会社にも迷惑をかけるからという切実な悩みがある。
- ・20年ほど前は地域に女性がいて、たくさん地域の役割を果たしていたため、子どもが地域に出ても様々な活動ができたが、現在は、子どもを地域で遊ばせられないという母親の不安が大きく、一方で、全部を自分がコーディネートしていく（ワンオペ）には無理がある。少子化対策を考えるうえで2人目が生まれることは大事であり、兄弟関係の楽しさを学ぶなど子どもにとってもよいことだが、家族の中で、地域の中で難しくなっていることにどのように対応したらよいのか、日々頭を悩ませている。
- ・地域の中で企業が乗り出してきている新しい活動分野（例えば子育て世代の配食サービス、子どもの移送サービス）の利用が当たり前になり、冷たい目線で見られることがなくなる地域になるとよい。
- ・中高年層が孫育てや地域の子どもの面倒も見てあげたいと思ったとき、中高年のグループを作る動きが今、地域にないので、考えていただきたい。岐阜県には孫育てしたいおじいさん、おばあさんが多いので、そこは狙い目であると思っている。

#### <委員>

- ・学生は、県の子育て政策の情報を、自分から調べに行かないと分からないことが多い。大学でライフプラン啓発として講演会、セミナーが開催されているが、セミナーに参加できない学生も多いため、参加できていない学生にももっと知ってもらうことが大切だと思う。
- ・スマートフォンやモバイルを使っている学生も多いので、モバイルの中での情報発信や動画でのPRを行うなど、若者にも親しみやすい周知の方法があると思う。その中で興味を持ったところからホームページを見て詳しい情報を得ることが、これから結婚、子育てする若者にとっての安心感に繋がる。

#### <委員>

- ・無償化の具体策はまだ見えていないが、スピードアップされることになる。無償化によって保育所入所希望は増えるため、保育士の不足は深刻な問題である。保育士・保育所支援センターオンライン登録者数を40倍にするという目標に、私どももお手伝いしたいが、新しいタイプのことをやらないと追いついていかない。元保育士の経験者、新卒者を含め、受入側の質・量の対策も必要になってくる。
- ・幼稚園、保育所から小学校への教育の連続が課題。また、保護者の方は、小1の壁を危惧している。保育所で11時間見てもらえていたものが、4月1日からは放課後児童クラブがあっても同じようにはいかない。また、小学校の行事があるごと振替休日は困ることになる。小学校にいった子どもたちの切れ目のない安心安全な子育てを支援してほしい。
- ・0歳児の職員配置基準は子ども3人に対して保育士1人であるが、災害時の避難ではこの規定の配置では0歳児の子どもに対応できない。そういう時には2対1が理想と考えるが、通常時の保育士の数を考えると矛盾と困難を抱えた保育現場があるということを承知いただきたい。

#### <委員>

- ・安心して子育てできる地域をいかに作っていくのだが、今は婦人会、老人会に参加する人が少なくなっている。一億総活躍社会といわれるが、高齢者の力をどのように子育て、孫育てに生かしていくかも含め、市民が地域を作っていくことが必要と感じている。

#### <副会長>

- ・「配慮を要する子どもや家庭への支援」における指標についてであるが、達成状況で丸になっている部分でも、いま問題の中心となっている発達障がいの方々への支援を考える必要がある。
- ・数値だけでは内容が明らかになってこない部分もある。数値が伸びない理由を考えていただくと、例えば、教育であれば、発達障がいの方々への支援や、特別支援教育という名前で支援を要する方には貧困や外国籍の方も含まれるので、発達障がいの方々や外国籍の方々への支援の

充実という面も見てほしい。時代の変化とともに求められるものは何かという視点で見ていただきたい。

<会長>

- ・子育て支援というと市町村が担う役割が多いところ、県が行う役割は何かを考えると、調整機能というものが中間自治体として大事になってくる。市町村による無償化の話もあったが、地域間競争が過度になることは良くないと言われていることであって、県全体が良くなっていくよう調整していくという役割がある。
- ・本日の議論にもあったが、少子化対策には現に住んでいる人たちへの結婚、出産、子育て支援の他に、出生率が上がっても若い人の数が下がってはいくともならないわけで、若い世代を呼び込めるよう、雇用や子育て環境の改善が必要である。
- ・地域間競争への懸念について、日本全体としてはどうかという視点で見ると、東京では極端に出生率が低く、大都市に行けばいくほど通勤距離が長くなり、家が狭くなり、子育て環境が悪くなることから出生率が下がると言われている。そういう意味では地方分散を進める理由があり、県として、都市部よりも岐阜県の方が子育て環境がよいということのアピールをすることはよいと思う。

### (3) 県子ども・子育て支援事業支援計画の中間年の見直しについて

<子育て支援課長>

- ・県子ども・子育て支援事業支援計画の中間年の見直しについて説明

<会長>

- ・中間年の見直しについて異議なしということによろしいか。

※異議なし

<副知事>

- ・貴重なご意見をいただき、ほとんど全ての論点が出尽くしたかと思い感謝している。中間自治体としての県の役割にも言及していただきその通りだと感じている。
- ・転入転出の話があったが、県も移住定住の促進に力を入れているところであり、地方創生の中で何ができるのかを検討したところ、学生の東京一極集中を是正しなければならないということになった。国にも東京23区内の定員抑制や地方の小大学の振興について要請している。
- ・どこに住んでいるかで出生率が大きく変わる。東京一極集中の是正は待機児童問題の解消など、少子化対策の観点からも進めるべきであり、地方分散を進めていきたい。
- ・子育て環境が良くても魅力がある仕事がないとなると、若者は住まない。中小企業の製造業など魅力はあるがそれが伝わっていないため、今ある魅力を若者に知ってもらい、子育て環境はもちろん、その他の部分を良くすることで定住・移住を進めていきたい。
- ・少子化対策、子育て支援の仕事の中心は市町村であるため、協力・調整して役割を果たしていきたい。
- ・不妊治療については、再度点検して検討していきたい。
- ・病児保育について、東濃での実施がないことについて、具体的に検討したい。
- ・保育士の確保については、介護士とともに人材確保対策の柱としているが、非常に不足していると承知している。
- ・育児休業の制度の浸透がされていないことについて、周知をさらにしていきたい。男性への周知が本県では遅れているとのことで、企業の皆様にも意識を是非変えていただきたい。
- ・若者への情報発信は若干弱い部分であるため、工夫していきたい。
- ・小1の壁についても認識しており、放課後児童クラブ等も支援していきたい。
- ・多岐にわたりご意見をいただいたが、それぞれもう一度施策を点検して進めていくので、委員の皆様には引き続きよろしくようお願い申し上げます。